



人 人 にんにん連携



発行元：甲賀圏域地域連携検討会・甲賀圏域医療福祉推進協議会 公立甲賀病院内 地域医療連携室 0748-62-0234 (代)

「第 3 回甲賀圏域在宅医療推進フォーラム」が開催されました。

甲賀健康福祉事務所（甲賀保健所）小林 寿子 氏

このフォーラムは、住み慣れた地域で安心して暮らし続け、在宅で看取られるなどおだやかな最期を迎えられるよう、医療や介護の連携による在宅医療のあり方を住民のみなさまと共に考えるため、甲賀圏域医療福祉推進協議会と共催して開催しており、今年で 3 回目となりました。

今回は、「生きること」をテーマにしたご講演と、シンポジウムでは管内のさまざまな施設での看取りや支援を紹介していただきました。アンケートでは、「自分がどのように最期を迎えたいか考えてみる」「地域の在宅医療のサービスについて勉強する」等の意見が多く、住民のみなさんの意識が変化している事を感じました。このような啓発は、関係機関のみなさんと協働で取り組んで行く事が大切だと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



第 3 回 甲賀圏域在宅医療推進フォーラム 結果報告

住み慣れた地域で安心して暮らし続け、在宅で看取られるなど、その人がその人らしくおだやかな最期を迎えられるよう、医療や介護の効果的な連携、在宅医療の推進が求められています。

甲賀市および湖南市を区域とする甲賀圏域において、地域の特性・実態を踏まえた在宅医療の在り方を考えるためフォーラムを開催しました。テーマは『Are You Ready? いっぱい生きよう、そして最期を考えよう』

雪がちらつく大変寒い日でしたが、334人の方にご参加いただきました。関係者だけでなく、住民のみなさんの参加も多く、在宅医療への関心の高さがうかがえました。今後も様々な形で情報発信をしていくことが大切だと感じました。

日 時：平成26年1月26日（日）13時～16時30分

場 所：甲西文化ホール

参加者：住民212人 関係者122人 **計334人**

主 催：甲賀圏域医療福祉推進協議会

共 催：一般社団法人甲賀湖南医師会、甲賀市、湖南市、甲賀圏域地域連携検討会
滋賀県甲賀健康福祉事務所（甲賀保健所）

シンポジウム 「選べるラストステージ」

コーディネーター

医療法人社団阿星会
甲西リハビリ病院

院 長 田中成浩 氏

シンポジスト

医療法人今村医院
社会福祉法人近江ちいるば会
グループホーム ぼだいじ
株式会社なんてん共働サービス
小規模多機能型居宅介護事業所 秋桜舎
社会福祉法人近江和順会
特別養護老人ホーム ヴィラ十二坊

院 長 今村陽一 氏

管理者 堀内京子 氏

管理者 溝口 弘 氏

施設長 森本信吾 氏

滋賀県甲賀健康福祉事務所

所 長 井下英二 氏

講 演

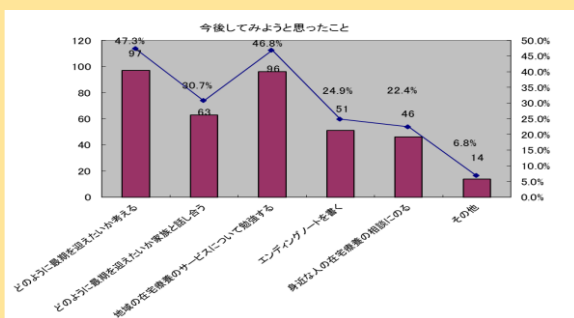
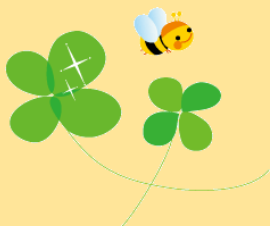
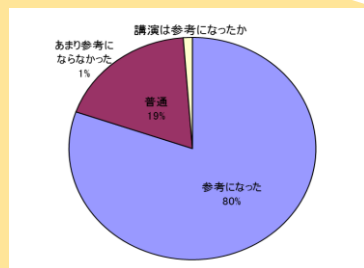
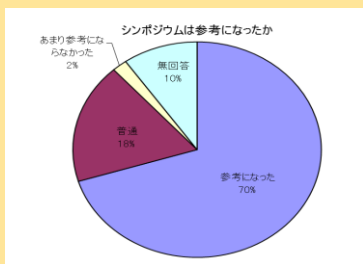
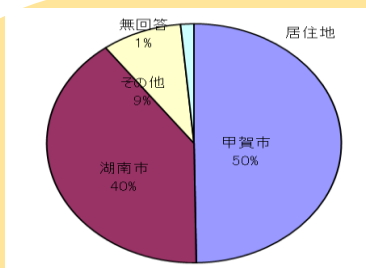
「回峰行のころ」

-生きることを見つめ直す-

比叡山延暦寺一山 南山坊住職 北嶺大行満 大阿闍梨
光永 覚道 師



アンケート集計の結果



《感想から一部抜粋》

＜シンポジウム＞

- ・高齢者サロンで今日の講演内容を参考にできるのではと思う。(70歳代・男性)
- ・ラストステージの選択肢を知り、今後、さらに在宅について考えていきたいと感じた。(30歳代・男性)
- ・厚労省の「地域包括ケアシステム」の実現には在宅療養支援診療所の充実がkeyであると思う。特に往診に消極的な医院もあり懸念される。今村医師のような方が働きやすいような環境作りと組織連携の推進は行政の役割だと思う。(70歳代・男性)
- ・小規模多機能型居宅介護のような取り組みがさらに広がったらよいと思いました。(60歳代・女性)
- ・終末期に関して参考になり、どのように接していくか民生委員としても考えさせられた。(70歳代・男性)

＜講演＞

- ・在宅医療を増やすのは、三世代同居ができることが第一。そのような世の中にすることが今後に必要なものではないか。(70歳代・男性)
- ・欲を持って(コントロールして)生活をするという言葉が判りやすく考えやすい言葉で参考になった。苦勞を楽しむという言葉も心の残った。「楽志」(70歳代・男性)
- ・今後の生き方について振り返るきっかけになった。(40歳代・女性)

《在宅療養を進めるための必要な取り組み、意見など》抜粋

- ・「看取り教育」子どもから高齢者まで必要では。(40歳代・男性)
- ・老人会等で今日の内容をまとめて話す。(50歳代・女性)
- ・在宅でも安心して暮らせるように、どのようなサポートがあるのか十分知ってもらい、1人で介護していくのではなく、皆でサポートしていくことを知ってもらうことが大事で、知る事で在宅へ向かうのではないかと思う。(50歳代・女性)
- ・24時間対応の訪問介護・訪問看護を増やすべきだと思います。(30歳代・女性)
- ・医療福祉のサービスだけでなく、市や地域全体で取り組んでいく必要性がやはり高い。多くの人の協力、共働が必要と感じる。(30歳代・男性)

次回の研修会のお知らせ

来年度の参加もお待ちしております!!

来年度の研修会などについては、決まり次第お知らせさせていただきますので、よろしくお願い致します。また、第16号の発行が遅れました事をお詫び申し上げます。

